

第14期 図書館運営3ヶ年計画

2016－2018

(平成28年度～平成30年度)

置戸町立図書館

1、策定にあたって

平成 27 年 4 月をもって「置戸町生涯学習情報センター」から「置戸町立図書館」へと名称を戻しました。これで名実ともに図書館法に基づいた施設になったこととなります。

置戸町立図書館は昭和 28 年 4 月に図書館条例施行、昭和 40 年 1 月に農村モデル図書館の補助事業を受けて開館し、全域サービス、貸出サービス、児童サービスを公共図書館の基本的機能と位置付け、図書館サービスを展開し、その上で地域課題と向き合うといった小さな町の図書館としての役割を果たそうと努力を続けてきました。

その礎、実践的指針となったのが昭和 46 年から続く図書館の 3 カ年計画です。昭和 46 年に第 1 期置戸町立図書館振興 3 カ年計画を策定し、以来 10 期、生涯学習情報センターと名を変えてから平成 19 年より置戸町生涯学習情報センター運営 3 カ年計画として 3 期策定し、それに基づいて図書館運営を進めてきました。

置戸町は平成 27 年に開町 100 年を迎え、ひとつの節目を越えたこととなります。しかし、少子高齢化を含む過疎に対する問題、それに対する教育、福祉、あるいは地場産業などの経済的な問題等は継続して残っていきます。

そういう状況の中で小さな町にある図書館としてどうあるべきかを念頭に置き、この計画を策定いたしました。なお、今期計画は、生涯学習情報センター運営 3 カ年計画として立てた計画 3 期分を通算し第 14 期といたしました。

本計画を共に策定していただいた図書館協議会の皆様に感謝するとともに、「本のあるみんなのひろば」として、置戸町の生活の中にある施設として数々の事業、運営に参加してくださる町民の皆様の特段のご支援とご協力をお願いいたします。

2、基本方針

置戸町は開町 100 年を迎えましたが財政難、人口減、少子高齢化など厳しい課題に、引き続き、あるいはさらに進行した形で直面しています。そして、様々な制度の変化や技術の革新も著しく、図書館には、貸出、レファレンス・サービス、予約サービス、全域サービスといった基本機能を発揮した上で、さらにこれら地域や住民の課題解決を支援する機能の一層の充実が求められています。

開館して 10 年経過し、貸出率はこの 3 年減少傾向に推移しています。しかし、極端な少子高齢化の進行で人口形態が変化し、地域のありよう、住民の交通手段にも変化が予想されます。それにあわせた形でのブックモービルの運行、本の宅配の実施、それぞれの機関との連携が必要となります。

また少子化ではありますが、児童・幼児に対するサービスを大切にシフアー

ストブックプレゼント事業そしてそのフォローアップ事業の充実するとともにプレゼント本の見直しをすすめます。1984年に設定し1987、1994、2000、2008年に改訂した「おけとこどものほんだな」の今の時代にあった改訂作業を実施します。

高齢化に対しては大活字本の充実、各老人施設、団体との連携が必要です。視力障がい者の読書要求に応えるべく、また、メディアの変化などにより、郷土資料などを次世代に引き継ぐための新たな良質の保存方法、提供方法も十分な検討がなされなければなりません。

過去の歴史を大切にし、読書要求に応える事によって現在の生活に寄与し、未来を考える図書館でありたいと考えます。

3、重点目標

- (1) 地域文化を見つめ、暮らしや地域の課題解決に役立つ資料の充実を図る。
- (2) 子どもやお年寄り、からだの不自由な人の読書環境を整備し、全ての世代にわたり心豊かな読書ができる機会を提供する。
- (3) 住民の自主的な学習・創作活動を支援する。

4、資料の収集

(1) 資料の購入

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
購入冊数	5,000冊	5,000冊	5,000冊
寄贈冊数	200冊	200冊	200冊
除籍冊数	5,500冊	5,200冊	5,200冊
蔵書冊数	120,000冊	120,000冊	120,000冊
資料購入費	8,500千円	8,500千円	8,500千円
内基金繰入金	2,000千円	2,000千円	2,000千円

- ・平成30年度末蔵書冊数 120,000冊
- ・書架収容能力 約12万3千冊(当初9万冊)
- ・資料購入単価は、1,700円で推計した。
- ・除籍は、「業務基準」に基づき実施する。
- ・基金繰入は、資料購入費の25%を上限とする。

(2) 分類別購入計画

分 類	平成30年度推計 (%)	平成28～30年度 (冊)
K. H. 郷土・北海道関係資料	4. 0 5	5 0
0. 総記	1. 5 2	1 8 0
1. 宗教・哲学・心理学	1. 7 5	2 8 0
2. 地理・歴史・伝記	4. 7 3	6 5 0
3. 政治・経済・福祉・教育	8. 7 5	1, 4 5 0
4. 自然科学	4. 8 6	9 2 0
5. 工学・建築・家事	6. 4 9	1, 4 0 0
6. 産業・農林業	3. 2 9	6 5 0
7. 芸術・スポーツ・工芸	8. 1 1	1, 1 6 0
8. ことば	1. 0 7	1 5 0
9. 文学	2 3. 6 8	3, 4 0 0
E. J. 絵本・児童書	2 8. 9 9	4, 4 0 0
P S. 紙芝居	0. 8 8	9 0
V. 視聴覚資料	1. 8 3	2 2 0
計	1 0 0. 0 0	1 5, 0 0 0

- ・ 選択は利用者の資料要求並びに「資料収集方針」に基づくものとする。
- ・ 地域や住民の暮らしに役立つ資料を積極的に収集する。
- ・ 大活字本の充実を計るため9. 文学をやや厚く算定した。

(3) 逐次刊行物

- ・ 新聞 7紙以上 (平成27年度/中央紙4紙、道内紙1紙、地方紙2紙)
- ・ 雑誌 90タイトル以上 (平成27年度/89タイトル)
- ・ 重要な逐次的情報として置戸町民の生活要求・情報要求にあわせ整備する。

(4) 地域資料

- ・ 行政資料の収集・保存を推進する。
- ・ 町内で刊行された資料は漏れなく収集する。
- ・ ビデオ、DVD等の映像資料も系統的に収集する。
- ・ 北海道関係資料の精選、整理を行なう。
- ・ 置戸関連記事を収集する。
- ・ 「置戸の歴史を語る」の計画的集録を行なう。
- ・ 郷土資料のデジタル保存を実施する。

(5) 視聴覚資料

- ・映像資料や音声資料の充実を図る。
- ・インターネット利用の普及を図る。
- ・高齢者、障がい者が利用できるCD解説入DVD等の購入、充実を図る。

5、資料の管理

- ・配架、除架、除籍の円滑化を図る。
- ・書架の日常整理と延滞本の督促の徹底を図る。
- ・利用者端末の管理及び利用の促進を図る。
- ・毎年、蔵書点検を実施する。

6、貸出サービス

- ・平成27年度実績を基準とする。

(1) 資料の貸出

平成27年度利用状況(冊)

本館	ブックモバイル	団体貸出	合計
46,504	2,107	10,795	58,824

- ・利用の拡大を図るため、シニア層や施設を利用していない人への働きかけを積極的に行なう。
- ・集会行事を活用し図書館利用のPRを図る。
- ・集会行事等の開催に伴う夜間開館の実施。
- ・「本の宅配」の周知及び利用を推進する。
- ・ブックモバイルの有効利用とステーションの見直しをおこなう。
- ・団体利用の促進を図る

(2) 対象別登録率(町内登録者のみ)

平成27年度登録状況(%)

区分	全体	幼児	小学生	中学生	高校生	一般 (18~60代)	高齢者 (70代以上)
登録率	48.7	27.4	106.3	117.1	133.8	53.0	22.9

- ・学校や子どもセンター等との連携を強化し新規登録の推進を図る。
- ・集会行事等において新規登録をPRする。
- ・老人クラブ等と連携し登録率を高める。

(3) カウンター業務の充実

- ・予約サービス、リクエストサービスの充実を図る。
- ・レファレンスサービスの推進を図る。

平成 27 年度

予約図書	レファレンス
787冊	15件

7、こどもの読書環境の整備

- ・子どもの読書離れを防ぎ、子どもの読書を盛んにするため、学校、こどもセンター、児童センター、保健師との連携を強化し、児童サービスを充実する。DVDなど視聴覚資料を活用し、本への導入を図る。
 - ①学校図書室等との連携
 - ②読書週間・読書月間の開催
 - ③おけとこどもの本棚の改訂・普及
 - ④おはなし会・子どもシアターの開催
 - ⑤ブックモービルの巡回の充実
 - ⑥学校教諭、保育士、児童センター指導員、保健師などと連携したファーストブックプレゼント・フォローアップ事業の実施
 - ⑦小・中学生のボランティアグループの育成

8、シニア世代の読書環境の整備

- ・高齢者のライフスタイルや高齢者特有の情報要求に応えた資料を充実する。
 - ①高齢者・福祉団体との連携強化
 - ②本の宅配サービスの促進
 - ③ブックモービルの巡回の再編・ステーションの開拓
 - ④大活字本や視聴覚・音声資料の充実
 - ⑤中高年者創作グループの育成

9、地域の学習・情報拠点機能の充実

- ・住民の学習、文化、創造活動や情報交換、交流活動の場の活性化を図る。
 - ①社会教育、福祉施設との連携強化
 - ②講座、教室、研修会、映画会等の開催
 - ③図書館まつりの開催
 - ④持ち込み企画の奨励

10、管理運営体制の整備

- ・地域図書館としての機能を高めそれを住民に周知することにより、よりよき図書館運営を行う
 - ①生涯学習だより、要覧の発行
 - ②ホームページの管理運営
 - ③他館とのネットワークによる相互貸借の推進
 - ④ボランティアグループの育成

資 料

- 1、 第3期生涯学習情報センター運営3カ年計画の反省評価
- 2、 計画の体系 資料1-1 資料1-2
- 3、 第10次社会教育5カ年計画抜粋
- 4、 図書館・生涯学習情報センター利用概況
- 5、 資料購入計画・実績一覧
- 6、 第14期蔵書購入計画（平成28年度から30年度）

第3期生涯学習情報センター運営3ヵ年計画の反省・評価

第3期生涯学習情報センター運営3ヵ年計画（平成25年度～平成27年度）の期間中、平成27年に置戸町は開町100年を迎えました。

町としては、町民構成劇「おけと100年物語～生命のつながり」上演、おけとグリーンフェスティバル開催、開町100周年記念要覧発刊等さまざまなイベント、刊行物が発刊されました。

図書館としては従来よりDVD等で撮りためていた「置戸の歴史を語る」、あるいはさまざまな郷土資料記載の証言をベースにした「語りつぐ歴史と証言全5巻」の発刊、開館10周年記念講演「夢枕獭講演会」を開催しました。

また平成27年4月1日に図書館条例を施行し生涯学習情報センターから正式に図書館法に基づいた施設、置戸町立図書館として再スタートを切りました。

昭和28年に先人がひとつの気構えをもって名づけた名称を平成16年10月の生涯学習情報センター条例施行以来、再度、伝統を受け継ぐ形で名乗ることができるのは図書館として喜びにたえません。また、図書館の存在意義もよりシンプルな形で力強く将来に渡って受け継いでいくことができるかと思いません。

しかし、町の人口は、3,247人、3,147人、3,093人と減少し、住民一人当たりの貸出率は16.3冊、15.3冊、15.7冊と横ばいながら、個人貸出冊数は124,217冊、122,724冊、120,380冊、来館者数は20,940人、19,216人、18,843人と町の人口減少に呼応する形で減少がみられます。

幼児・児童サービスについては、計画中の「こどもの読書環境の整備」の項目をほぼ執行してきましたが、平成23年開始のファーストブックプレゼント、平成20年改訂のおけとこどものほんだな、共に内容がやや古びてきており、11期中の改訂が必要となります。また置戸小学校で実施された読書アンケートでもこどもの読書離れが懸念されており、さらなる学校、こども園等の関連施設と連携したきめ細やかな図書館活動が必要です。

また、実施はしてきましたが、高齢者サービスは置戸の極端な高齢化に対応するため、大活字本、DVD、朗読CDの今一步の充実が必要です。

中高年者創作グループの育成、小中学生ボランティアグループの育成も取り組んできましたが会員の高齢化、子どもの数自体が減っている中でのボランティア人員の減少など課題が残ります。

やまびこ号でも学校の統合化などで地域コミュニティに子どもがいない、あるいはいても子どもの時間そのものがない、また極端な高齢化で、ステーションが維持しづらい、新たに設けにくい状況が続いています。本の宅配サービスとあわせて地域の実情にあわせたステーションの配置、町の全体的な生活動線を考慮に入れた上での全域サービスが必要となります。

書籍の購入については毎年5,000冊以上の購入が確保できました。除籍に

ついても3年間で18,102冊と受け入れ冊数17,394冊とほぼ同数の除籍をおこない書架の新鮮さを保つことができたと思います。

図書館の設置及び運営上の望ましい基準

文部科学省 (2012)

市町村立図書館

- 管理運営
 - 基本運営方針及び事業計画
 - 基本的な運営方針の策定及び公表
 - 目標を設定し事業年度ごとの事業計画の策定及び公表
 - 目標及び事業計画の達成状況等に関する点検及び評価等
 - 図書館協議会、その他の関係者による評価、公表
 - 点検、評価に基づく運営の改善、公表
 - 広報活動及び情報公開
 - 開館日時等
 - 地域の実情に配慮した開館日・開館時間、適切な周期による移動図書館の運行
 - 図書館協議会
 - 図書館協議会の設置による利用者、住民の要望の反映
 - 図書館協議会委員に多様な人材の参画
 - 施設・設備
 - サービスの水準を達成するための施設・設備の確保
 - 高齢者、障がい者、乳幼児と保護者、外国人その他が図書館施設が円滑に利用できる施設の整備
- 図書館資料
 - 図書館資料の収集等
 - 資料の収集の方針策定、公表
 - 十分量の資料の計画的な整備、郷土資料、地方行政資料、新聞、視聴覚資料の整備、郷土資料の電子化
 - 図書館資料の組織化
 - 図書館資料分類、配架、目録・索引の整備
- 図書館サービス
 - 貸出サービス等
 - 貸出サービスの充実、予約制度や複写サービスの運用
 - 情報サービス
 - レファレンスサービスの充実、レファレンスサービスの実施
 - 地域の課題に対応したサービス
 - 利用者に対応したサービス
 - 多様な学習機会の提供
 - ボランティア活動等の推進
- 職員
 - 職員の配置等
 - 館長は司書資格者が望ましい
 - 司書、司書補の確保
 - 職員の研修

公立図書館の任務と目標

日本図書館協会 (2004 改訂)

市町村立図書館

図書館サービス・・・住民の求める資料や情報を提供する

- 図書館サービスの基礎を築くのは貸出
- 集行事業を行うとともに図書館機能の宣伝、普及、利用案内を行う
- 学校図書館との連携をすすめる、児童生徒に対し利用案内を行うとともに求めて応じて学校における学習や読書を支援する
- 高齢者の資料、施設、設備、機材の整備充実ときこまかなサービスの提供
- 障害者等の図書館利用の権利の保障
- 在日外国人等に対し有効なサービスを行う
- 住民が利用しやすい開館日、時間の設定
- フロアサービス、レファレンスサービスを行う
- 所蔵をしていない資料も含めて予約できる体制を整える
- 求めに応じて団体や施設に対して貸出を行う
- 資料提供の一環として複写サービスを行う
- 住民の自主的な学習活動を援助するために集会機能をもつ
- 外部ネットワークの情報資源へ自由にアクセスできる環境を整備する
- 日常の問題解決に役立つ図書を備える
- 住民の関心に沿って、幅広く多様な雑誌を選んで備える
- 視聴覚障害者のための資料の収集に努める
- 地域に関する資料や情報の収集・提供に努める
- 所蔵資料が一元的に検索できるよう目録を整備する
- 住民の要求する資料を必ず提供するため、各市町村図書館が相互に協力しあう

延床面積	1,080㎡
蔵書冊数	67,270冊
開架冊数	48,906冊
資料費	10,000千円
年間増加冊数	5,574冊
職員数	6人

これからの図書館の在り方

これからの図書館の在り方検討協力会議 (2012)

- これからの図書館像
 - 図書館活動の基本的在り方
 - 出版物とともに電子情報の発信、保存もこれからの図書館の役割
 - 図書館政策の在り方
 - 地域の課題解決
 - 教育政策、生涯学習政策のなかでの図書館運営の方向性、まちづくりや地域の振興
 - 課題解決支援・情報提供機能の充実
 - 学習機会の提供
 - 電子情報の利用によるハイブリッド図書館の整備
 - 印刷資料と電子資料の両方を統合して利用できる図書館 (ハイブリッド図書館) へ
 - インターネット環境の整備
- これからの図書館サービスの在り方
 - レファレンスサービス
 - 貸出とレファレンスのバランス
 - 地域の課題解決
 - 専門的情報の提供
 - 広範な主題の専門情報の提供
 - 閲覧・貸出・リクエストサービス
 - 基礎的な図書館サービスとして充実させる必要性
 - 児童・青少年サービス
 - 児童サービス、読み聞かせの重要性
 - ヤングアダルトサービス
 - 図書館利用教育
 - 障がい者・高齢者・多文化サービス
 - 図書館職員全員の理解
 - 図書館資料の整備と提供
 - 一定の資料費の確保、雑誌、地域資料の重要性

図書館基本計画 (13～)

(生涯学習情報センター基本計画)
基本構想

- 1、本と出会う喜びや楽しみを実感できる図書館を目指します(豊富な新鮮な資料の提供に努める図書館)
- 2、日々の暮らしに役立つ図書館を目指します(地域の暮らしと密着し、生産課題や生活課題に応える図書館)
- 3、だれもが気楽に訪れることのできる、「本のあるひろば」としての図書館をめざします(「個人」と「人」の交流双方を大切に、多様な生涯学習の場としての図書館)
- 4、住民と共に成長する図書館を目指します(その豊かな可能性を、住民相互と職員との協同作業で創造する図書館)

基本方針(目標)

- ①貸出をサービスの基本とする
- ②だれでも利用できる開かれた図書館とする
- ③子どもを大切にしたい運営とする
- ④お年寄りや、からだの自由な人を大切にする
- ⑤人と人のつながりを大切にする
- ⑥置戸の暮らしの過去・現在・未来を保存し、かつ提案する
- ⑦住民の自主的で多様な学習、創造活動を応援する
- ⑧生涯学習を支えるひろばとなる

サービス計画

- 1) 貸出サービスを基本にすえて
 - ・資料の充実
 - ・予約・リンクエクスサービス・読書案内の推進
 - ・レファレンスサービスの充実
- 2) 子どもの読書環境の充実に努める
 - ・保健師等との連携強化
 - ・資料の充実
 - ・読書環境の整備
 - ・学校との連携及び学校図書室の支援
- 3) 中学生、高校生、若者世代、お年寄り・・・だれにとっても居心地の良い、開かれた図書館であるために
 - ・気楽に立ち寄れる場の提供
 - ・魅力的な本や雑誌の収集と提供
 - ・本を届けるサービス
 - ・大活字本やCD等の整備
 - ・ユニバーサルデザイン導入
- 4) 生活との結びつき～「暮らしに役立つ」ということ
 - ・商工、農林業関係者との連携を密にした資料収集と活用
 - ・地域資料の整理保存
 - ・地域課題に関する資料の収集
 - ・地域情報の記録・保存
- 5) 様々な資料の活用と収集
 - ・視聴覚資料の整備 充実
 - ・インターネットの活用
- 6) 各種事業の開催
 - ・新規利用者開拓及び利用促進
- 7) 場の提供～生涯学習のひろばとして
 - ・施設利用の推進
 - ・学習、文化、創造活動の応援
 - ・情報交換と交流の場の提供
- 8) 人と人とのつながりを大切にする
 - ・職員の資質、能力の向上
- 9) 届けるサービス
 - ・やまびこ号の運行(貸出、本館のPR)

第10次社会教育5ヶ年計画(27～31)

重点目標2「本のあるひろば」として町民の読書要求に応え、地域に根付いた図書館活動を展開します」
推進項目

- ①地域文化を見つめ、町民の暮らしや地域の課題解決に役立つ資料の充実に努めます。
 - ・各分野の新鮮な資料の収集と提供
 - ・行政資料の収集と保存
 - ・置戸関連の記事の収集、活用
 - ・「置戸100年の歴史と証言」集の発行
 - ・映像資料や音声資料の充実
 - ・インターネット利用の普及
- ②子どもからお年寄り、からだの自由な人等、幅広い読書環境の充実に努めます。
 - ・予約サービス・レファレンスサービスの充実
 - ・子どもからお年寄り、からだの自由な人等、幅広い読書環境の充実に努めます。
- ③生涯学習の場としての図書館を大切にする
 - ・ファーストブックプレゼント、フォローアップ事業の実施
 - ・おけとこどもの本などの改訂・活用
 - ・学校教諭、保育士、児童センター指導員、保健師との連携強化
 - ・学校図書室との連携
 - ・高齢者の読書環境、大活字本の整理
 - ・集行事を活用した貸出利用の促進
 - ・「本の宅配」の周知と利用の促進
 - ・高齢者福祉施設、医療機関との連携強化
 - ・心を豊かにする書籍(絵本・文芸)の充実
 - ・視聴覚資料を活用した本への導入
 - ・読書週間・読書月間の開催
 - ・移動図書館車やまびこ号ステーションの見直し
- ④住民の自主的な学習・創作活動を支援します。
 - ・ボランティアグループの育成
 - ・中高年者創作グループの育成
 - ・図書館まわりの開催
 - ・講座、教室、研修会、映画会等の開催
 - ・持ち込み企画の奨励、支援

第10次社会教育5ヶ年計画(2015~2019) (抜粋)

社会教育目標

「ぬくもりと喜びを大切にし、生涯を通して学びあい、彩りある暮らしと活力あふれる地域をつくりましょう」

基本方針

- ①地域にねざした学びで、自己を高め、彩りある暮らしづくりを進めます
- ②環境と資源を活かし、生産教育の機会を拡げ、潤いある地域づくりを進めます
- ③ふるさとの魅力を再発見し、地域力を高め、思いやりと笑顔に満ちたまちづくりを進めます

重点目標

- ①生涯を通じていきいきと学び合い、生きがいを実感し喜びを共有できる地域づくりを推進します
- ②本のあるひろばとして町民の読書要求に応え、地域に根付いた図書館活動を展開します
- ③モノづくりのまちとしての知識や技術伝承、地域の資源を活かし、おけとらしい生産教育を推進します
- ④北の大地にたくましく生きる健康づくりとスポーツ振興を図ります
- ⑤ふるさとの魅力や価値を再発見し、未来を拓く人づくりを推進して、地域力を高めます
- ⑥学びを支える社会教育施設の整備と、職員体制の充実を図ります

重点目標2 本のあるひろばとして町民の読書要求に応え、地域に根付いた図書館活動を展開します

【設定理由】

2015年4月に生涯学習情報センターから置戸町立図書館に名称が戻りました。

建設当時、もっとも有利な財源として選択した、国の過疎債使用の要件に図書館がなかったため止む無く生涯学習情報センターとして、運営してきましたが、10年の歳月を経て、図書館法に基づいた本来の姿に戻しました。

そこで、基本に立ち返り、重点目標は公共図書館として、さらには小さな町の図書館としての根幹にかかわる部分を直接的に言葉にしました。

公共図書館の役割である、情報・知識によって文化的でうるおいのある生活を維持し、乳幼児から高齢者まで、すべての年代の読書要求に応え、芸術や文学を鑑賞し、地域文化創造にかかわる場であることを再度目標とします。

小さな町の図書館として、置戸の地域文化を強く意識し、ここに住む人たち、あらゆる年代の読書要求、課題解決に役立ち、心豊かにする書籍・雑誌等を収集提供し、人づくりの観点からも、学びを通してさまざまな個性が育つことを

手助けします。

図書館サービスの原点を見つめなおし、以下の推進項目を展開してまいります。

推進項目

①地域文化を見つめ、町民の暮らしや地域の課題解決に役立つ資料の充実を図ります。

- ・各分野の新鮮な資料の収集と提供
- ・行政資料の収集と保存
- ・置戸関連の記事の収集、活用
- ・「置戸100年の歴史と証言」集の発刊
- ・映像資料や音声資料の充実
- ・インターネット利用の普及
- ・予約サービス・レファレンスサービスの充実

②子どもからお年寄り、からだの不自由な人等、幅広い読書環境の充実を図り生涯にわたり読書を楽しむ機会を提供します。

- ・ファーストブックプレゼント、フォローアップ事業の実施
- ・おけとこどもの本だなの改訂・活用
- ・学校教諭、保育士、児童センター指導員、保健師との連携の強化
- ・学校図書室との連携
- ・高齢者の読書環境、大活字本の整理
- ・集会行事を活用した貸出利用の促進
- ・「本の宅配」の周知と利用の促進
- ・高齢者福祉施設、医療機関との連携強化
- ・心を豊かにする書籍（絵本・文芸）の充実
- ・視聴覚資料を活用した本への導入
- ・読書週間・読書月間の開催
- ・移動図書館車やまびこ号ステーションの見直し

③住民の自主的な学習・創作活動を支援します。

- ・ボランティアグループの育成
- ・中高年者創作グループの育成
- ・図書館まつりの開催
- ・講座、教室、研修会、映画会等の開催
- ・持ち込み企画の奨励、支援

図書館・生涯学習情報センター利用概況

【基礎数値】	H27年度	H26年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
①人口(H27.4.1現在)	3,093人	3,147人	3,247人	3,317人	3,390人	3,403人	3,434人
②登録者総数	2,222人 (町内1,506・町外716)	2,876人 (町内1,918・町外958)	2,818人 (町内1,951・町外867)	2,668人 (町内1,880・町外788)	2,548人 (町内1,928・町外620)	2,420人 (町内1,796・町外624)	2,210人 (町内1,689・町外521)
③今年度新規登録者数	154人 (町内77・町外77)	148人 (町内85・町外63)	165人 (町内86・町外79)	150人 (町内82・町外68)	174人 (町内102・町外72)	212人 (町内101・町外111)	205人 (町内106・町外99)
④延利用人数 ()内は本館・やまびこ号の内訳	11,003人 (本10,036・や867)	11,203人 (本10,325・や878)	11,920人 (本11,099・や821)	11,938人 (本10,903・や1,035)	12,312人 (本11,425・や887)	12,736人 (本11,319・や1,417)	13,000人 (本11,589・や1,401)
⑤本館来館者数	18,843人	19,216人	20,940人	21,204人	21,289人	21,325人	21,063人
⑥貸出冊数～個人利用分～ ()内は本館・やまびこ号の内訳	48,611冊 (本46,504・や2,107)	48,167冊 (本46,267・や1,900)	53,117冊 (本50,882・や2,235)	51,811冊 (本48,576・や3,235)	54,763冊 (本50,958・や3,805)	54,402冊 (本49,763・や4,639)	54,230冊 (本50,005・や4,225)
⑦団体貸出	10,795冊	10,657冊	11,041冊	12,822冊	12,066冊	13,071冊	14,546冊
⑧蔵書総数 (配架ごとの概数:開架一般書59,299・準開架22,806、開架児童書24,802・準開架11,151 開架視聴覚架2,185・準開架137本)	120,380冊	122,724冊	124,217冊	122,083冊	121,422冊	116,022冊	110,800冊
⑨図書購入総数	5,135冊	5,100冊	5,336冊	5,502冊	5,260冊	5,526冊	5,393冊
⑩図書購入費(書籍および視聴覚資料)	8,499,996円	8,499,930円	8,499,976円	8,499,784円	8,499,940円	8,499,996円	8,559,947円
⑪その他資料購入費(紙芝居・雑誌・新聞・道録)	1,085,287円	1,084,992円	1,092,279円	1,134,823円	1,098,479円	1,418,506円	1,357,051円
⑫本館閉館日数	280日	277日	279日	282日	282日	283日	280日
⑬やまびこ号巡回日数(ステーション数28ヶ所・延べ345ヶ所)	148日	153日	160日	158日	148日	155日	152日

※平成27年4月図書館条例施行

1. 登録率(登録者数÷人口) (※町民登録率)	71.8%	91.3%	86.8%	80.4%	75.2%	71.1%	64.4%
	(48.7%)	(60.1%)	(60.0%)	(56.7%)	(53.9%)	(52.8%)	(49.5%)
2. 住民一人当たりの貸出冊数(貸出冊数÷人口)	15.7冊	15.3冊	16.3冊	15.6冊	16.2冊	15.9冊	15.8冊
3. 登録者一人当たりの貸出冊数(貸出冊数÷登録者数)	21.9冊	16.7冊	18.8冊	19.4冊	21.5冊	22.4冊	24.5冊
4. 住民一人当たりの蔵書冊数(蔵書総数÷人口)	38.9冊	38.9冊	38.3冊	36.8冊	35.8冊	34.1冊	32.3冊
5. 住民一人当たりの資料購入費(図書購入費÷人口)	2,748円	2,701円	2,617円	2,562円	2,507円	2,498円	2,493円
6. 奉仕見残り額(図書購入平均単価×貸出冊数)	80,421,205円	80,294,389円	84,615,381円	80,047,995円	88,497,008円	83,670,276円	86,063,010円
7. 1日当たりの平均貸出冊数(貸出冊数÷稼働日数)	166.0冊	167.0冊	182.4冊	172.3冊	180.7冊	175.8冊	178.6冊
1) 本館	14.2冊	12.4冊	14.0冊	20.5冊	25.7冊	29.9冊	27.8冊
2) やまびこ号							
8. 1日当たりの平均利用人数(延人数÷稼働日数)	67.3人	69.4人	75.1人	75.2人	75.5人	75.4人	75.2人
1) 本館の来館者数	35.8人	37.3人	39.8人	38.8人	40.5人	40.0人	41.4人
2) 本館の貸出利用者	6.5人	5.7人	5.1人	6.6人	9.1人	9.2人	11.7人
3) やまびこ号の貸出利用者							

H20年度	H19年度	H18年度	H17年度
3,503人	3,577人	3,629人	3,736人
2,164人 (町内1,663・町外501)	2,191人 (町内1,648・町外543)	2,094人 (町内一・町外一)	1,956人 (町内一・町外一)
213人 (町内120・町外93)	264人 (町内155・町外109)	301人 (町内169・町外132)	408人 (町内250・町外158)
14,583人 (本12,927・予1,656)	15,436人 (本13,205・予2,231)	15,552人 (本13,367・予2,185)	17,076人 (本14,892・予2,184)
22,368人	22,583人	23,869人	26,732人
59,928冊 (本53,889・予5,939)	64,739冊 (本57,085・予7,654)	68,158冊 (本60,276・予7,882)	74,261冊 (本66,302・予7,959)
8,490冊	9,812冊	11,274冊	10,560冊
105,208冊	100,165冊	95,090冊	90,761冊
5,020冊	5,539冊	5,590冊	7,691冊
8,499,981円	8,999,967円	8,999,862円	14,999,589円
1,358,000円	1,360,406円	1,484,647円	1,453,637円
280日	279日	278日	278日
142日	120日	117日	126日

※平成16年10月生涯学習情報センター条例施行

61.8%	61.3%	57.7%	52.4%
(47.5%)	(46.1%)	(46.3%)	(43.4%)
17.1冊	18.1冊	18.8冊	19.8冊
27.7冊	29.5冊	32.5冊	38.0冊
30.0冊	28.0冊	26.2冊	24.3冊
2,426円	2,516円	2,480円	4,015円
101,458,104円	105,200,875円	109,734,380円	144,808,950円
192.8冊	204.6冊	216.8冊	238.5冊
41.8冊	63.8冊	67.4冊	63.2冊
79.9人	80.9人	85.9人	96.2人
46.2人	47.3人	48.1人	53.6人
18.6人	18.7人	17.3人	

第14期蔵書購入計画

区 分	第14期3カ年計画	H28		H29		H30	
購入冊数 (3期計画)	15,000	5,000	(5,000)	5,000	(5,000)	5,000	(5,000)
寄贈冊数 (3期計画)	600	200	(200)	200	(200)	200	(200)
除籍冊数 (3期計画)	15,600	5,500	(5,000)	5,200	(5,000)	5,200	(5,000)
蔵書冊数 (年度末実績) (3期計画)	120,300	120,300 (h25:124,217) (114,000)		120,000 (h26:122,724) (117,000)		120,000 (h27:120,380) (120,400)	
資料購入費 (3期計画)	25,500千円	8,500千円 (8,500千円)		8,500千円 (8,500千円)		8,500千円 (8,500千円)	
基金繰入額 (3期計画)	6,000千円	2,000千円 (2,000千円)		2,000千円 (2,000千円)		2,000千円 (2,000千円)	
分類区分							
K・H	50	(20)	20	(10)	10	(20)	20
0	180	(60)	60	(60)	60	(60)	60
1	280	(100)	90	(100)	100	(90)	90
2	650	(220)	220	(220)	220	(210)	210
3	1,450	(500)	480	(500)	480	(500)	490
4	920	(300)	300	(310)	310	(310)	310
5	1,400	(470)	470	(470)	470	(460)	460
6	650	(220)	220	(210)	210	(220)	220
7	1,160	(380)	390	(390)	390	(390)	380
8	150	(50)	50	(50)	50	(50)	50
9	3,400	(1,080)		(1,080)		(1,080)	
			1,140		1,140		1,120
E・J	4,400	(1,500)		(1,550)		(1,500)	
			1,460		1,460		1,480
PS	90	(40)	30	(30)	30	(30)	30
V	220	(70)	70	(70)	70	(80)	80
計	15,000	(5,000)	5,000	(5,000)	5,000	(5,000)	5,000

() 第3期計画数値 (h25、h26、h27)